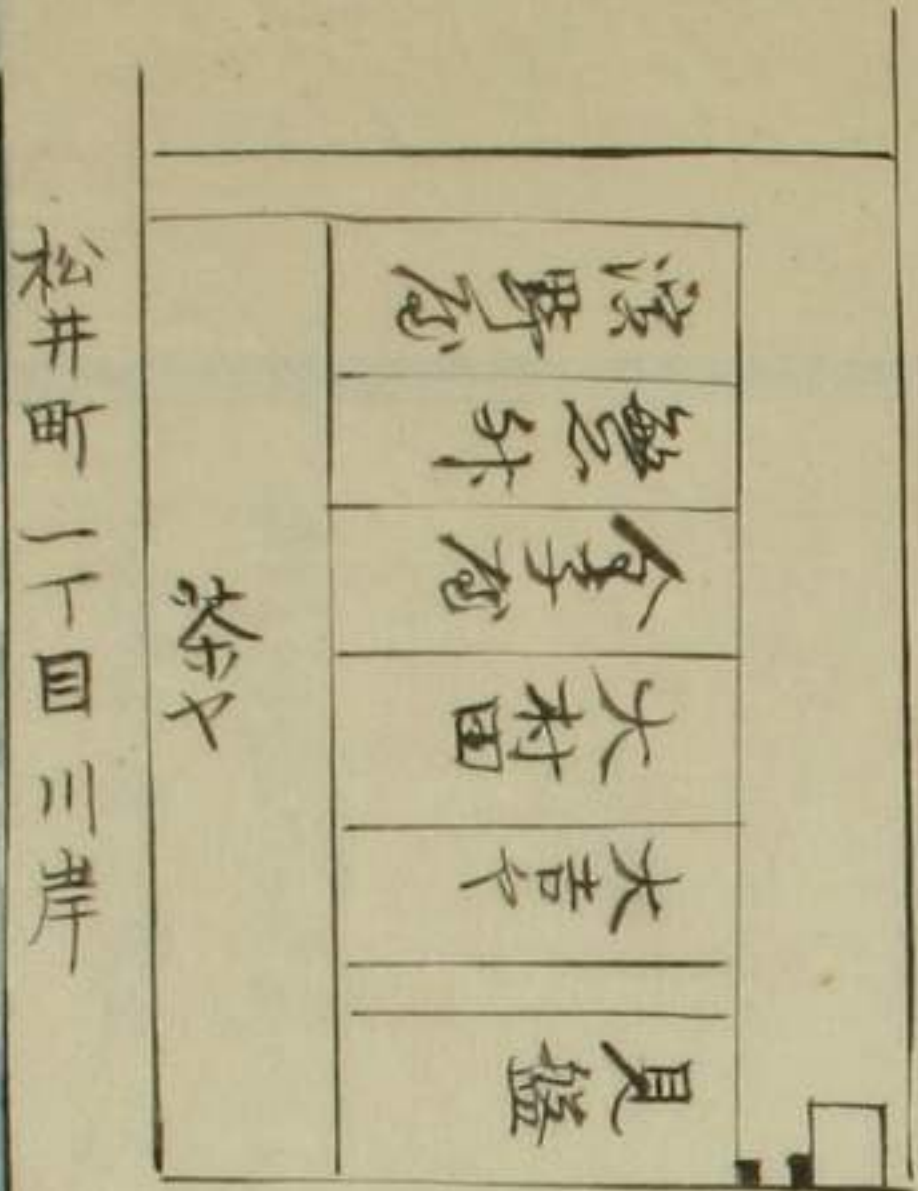
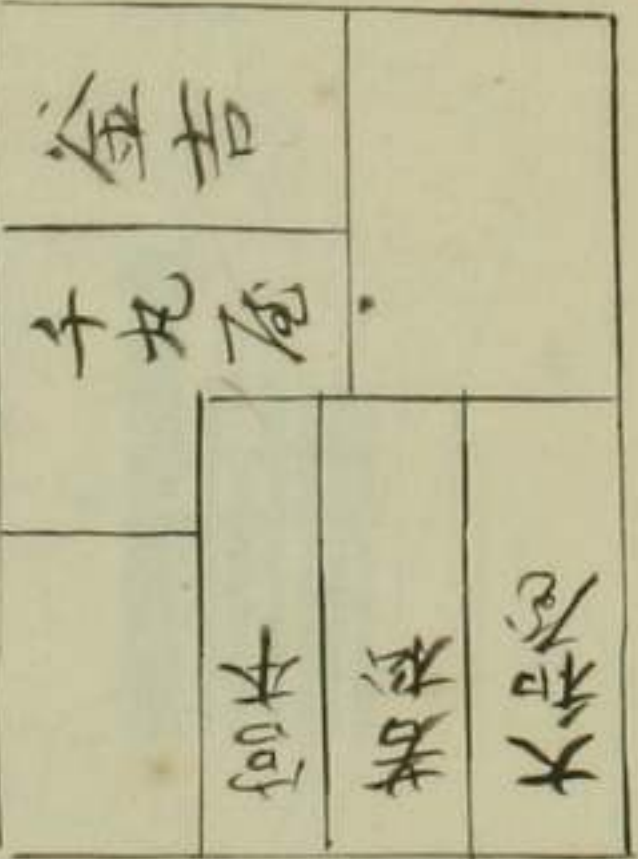


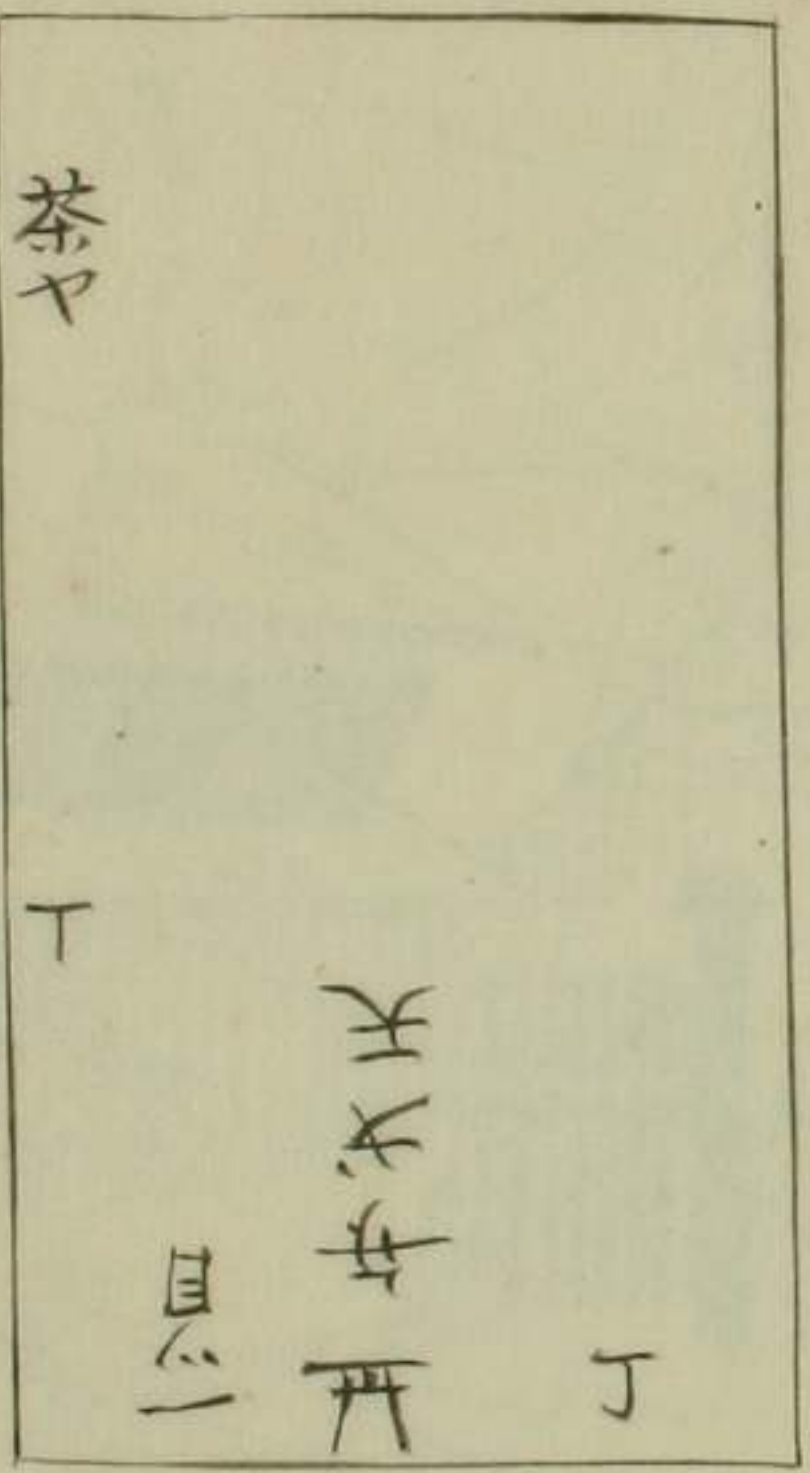
松井町一丁目



松井町一丁目
田村屋
子作

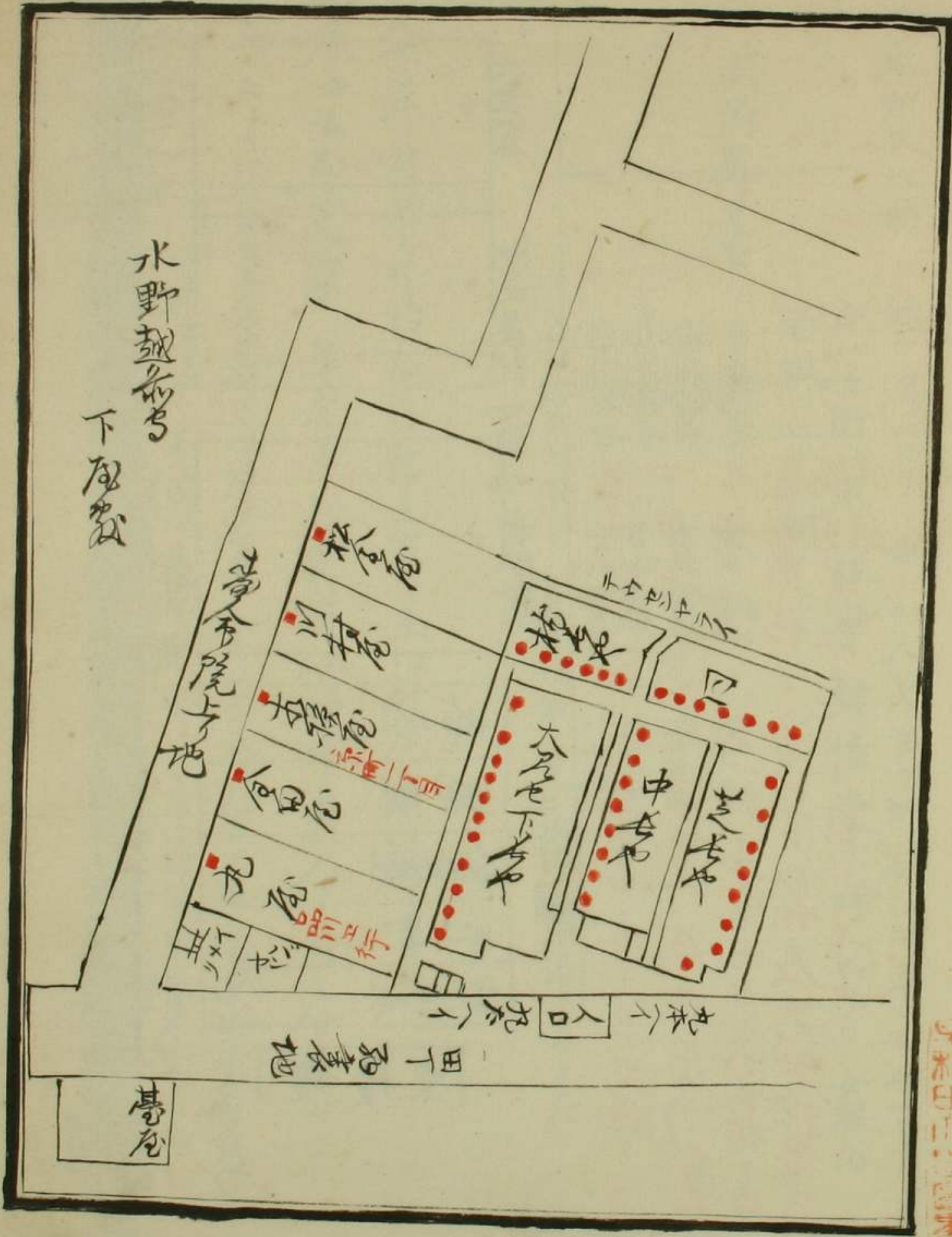


松井町一丁目
二部兵衛屋三井



立川

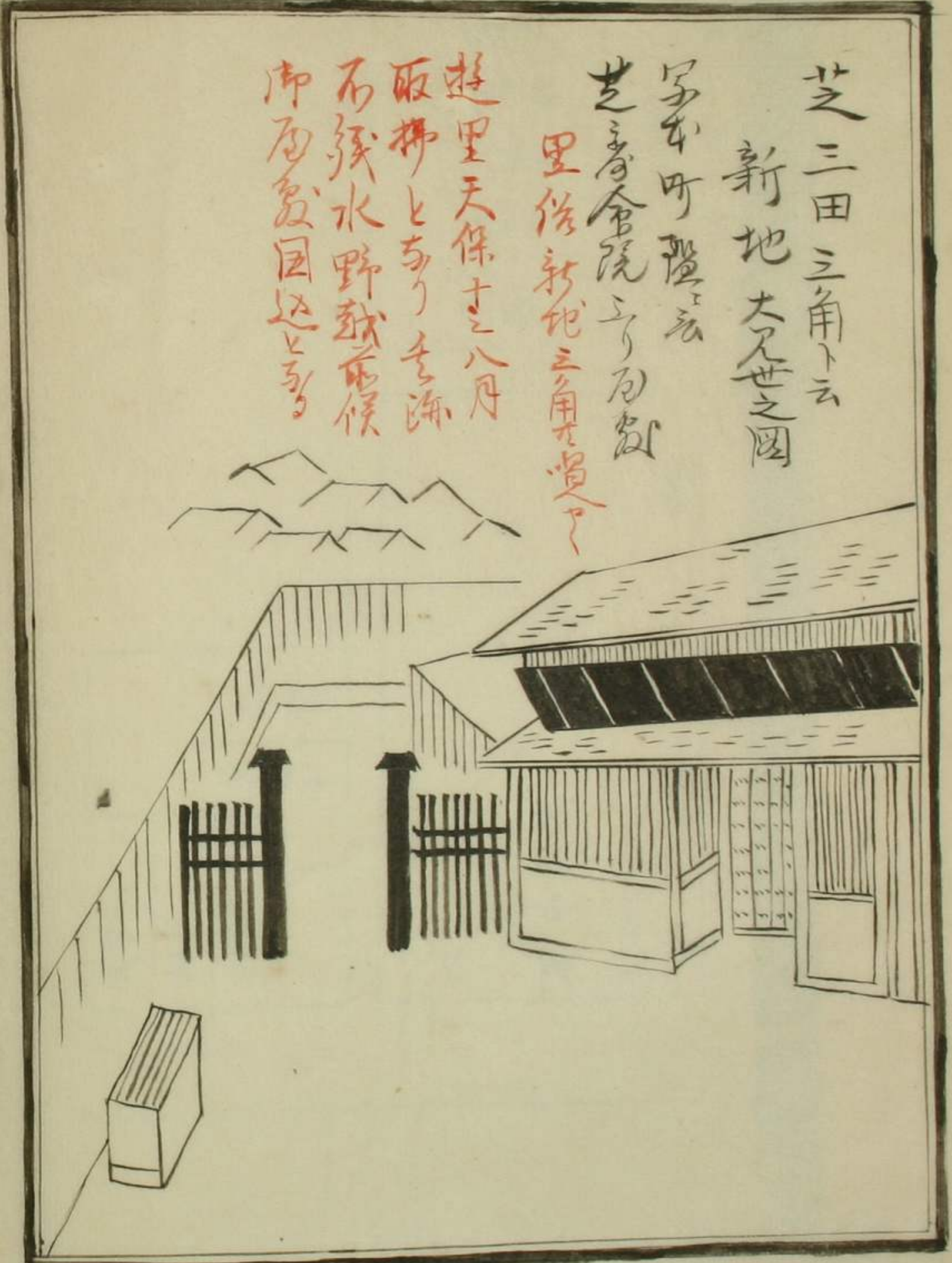
目三



水野越前
下町

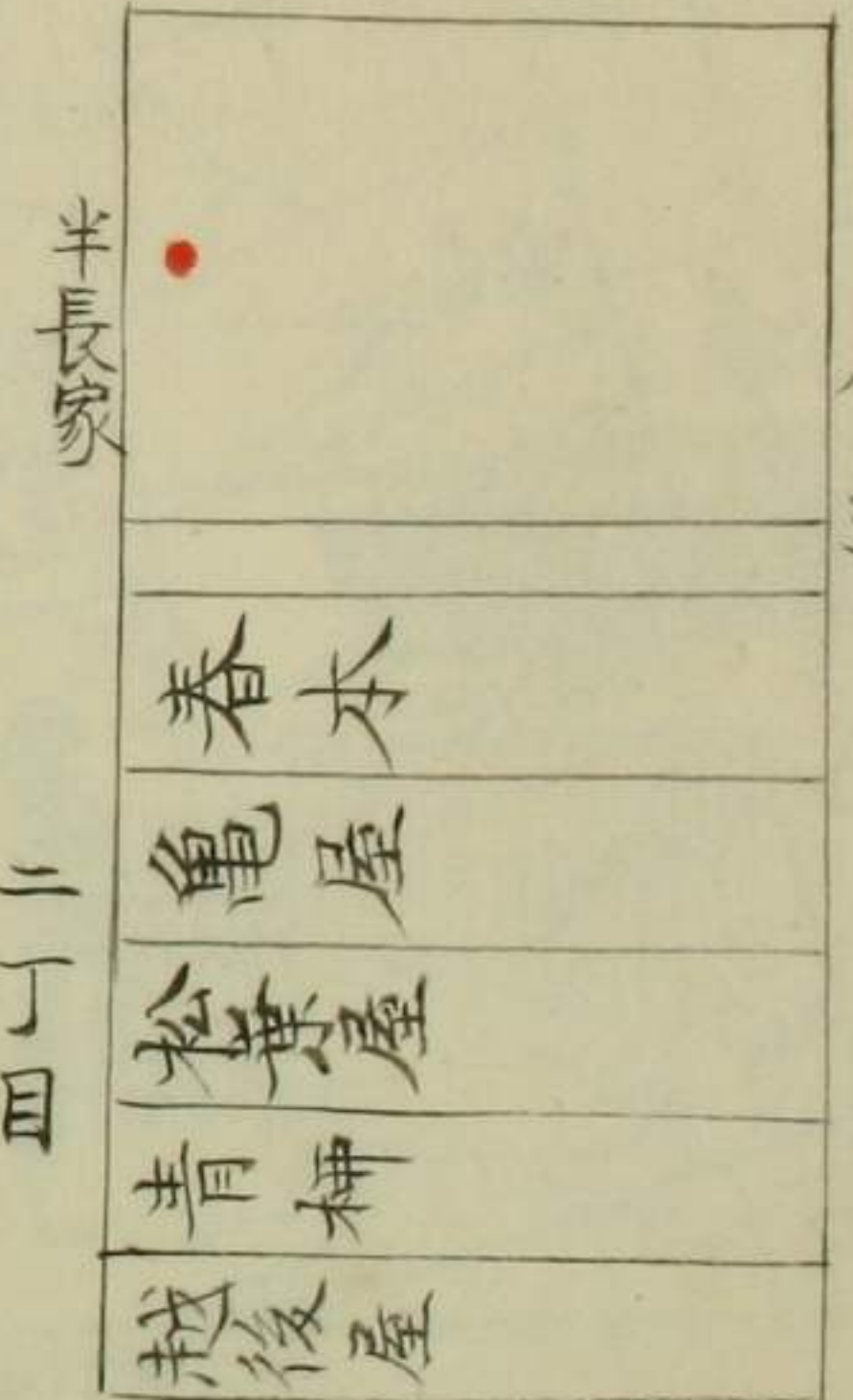
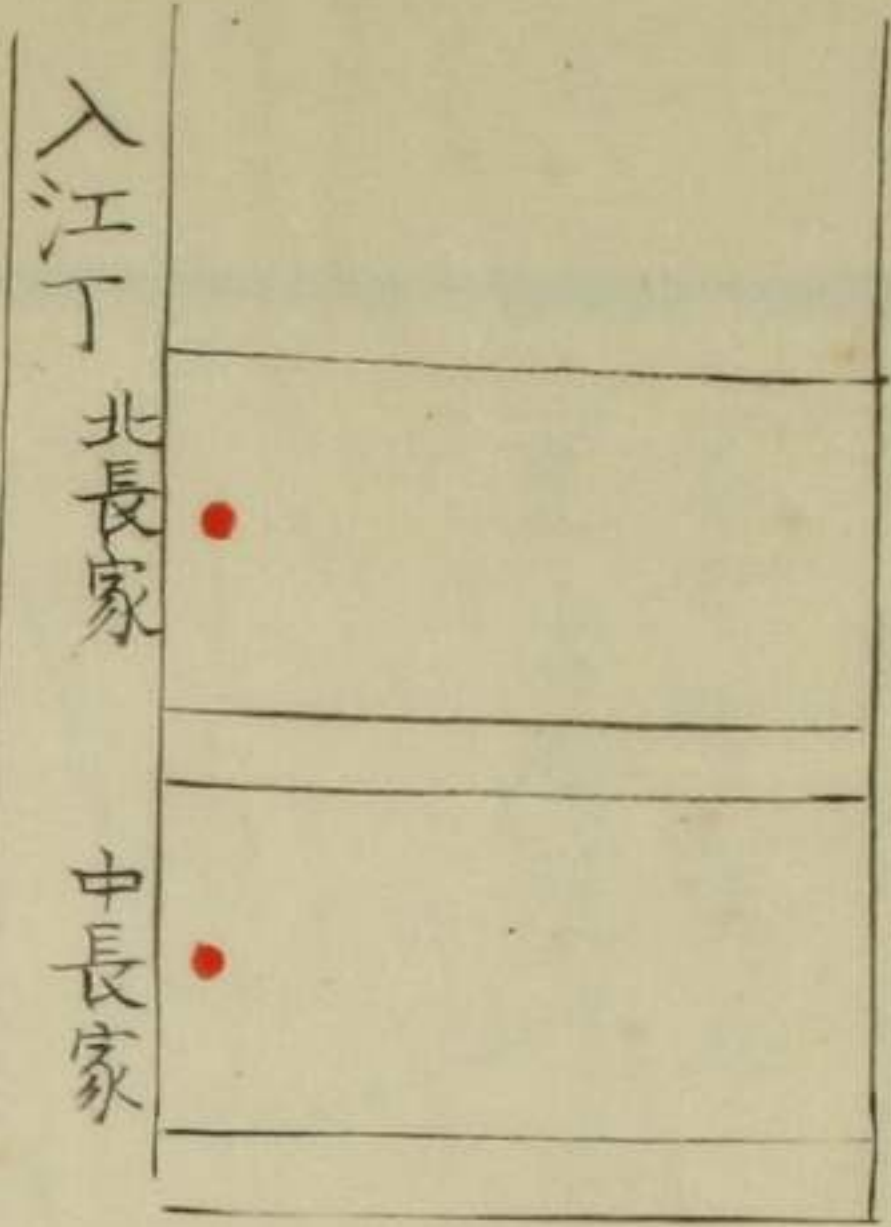
倉

芝三田三角



芝三田三角云
新地大元世之圖
写本町強云
芝倉金院云
里修新地三角賞
遊里天保十之八月
取拂とあり去海
石強水野越前候
市町廻り云

川岸通り



二丁目

鐘撞堂

高所ハ入江町寛文中申述元異層磔り直
 沖用地より止布利之橋横川より磔地
 小宮を臨み大和の路本所を在り由多
 靈土巖橋の南、方四地及先地人磔地以上
 山(を)を海(を)をく磔地(を)を



本所入江町

同所局見書

始局ハカリノ中二四六見世四軒有シヲ名ニモ呼ルヲ
 今ハ五軒ト成リ里俗ニ鐘撞堂ト呼ルナリ 女風俗
 赤坂ニヒトシ同クナリ

- 半長家 十三竈 六十口
- 中長家 十七竈 五十六口
- 北長家 十四竈 五十二口
- 六尺長家 十八竈 八十口
- 各々路次四限リト 九ツ切泊リ定ニ未切不限泊リヲツケルハ
 不限女風俗色々ナリ



高所四六見世五軒有也初より形を立せし夜四軒と通稱せり

舟車常席を云ふ不入江町平家半知四六有也浄土を敷人々が谷あり

但し引る甚しきりは云々世三四見有也其人多しと必居り是也其年多見也

奥國築安永年印本

入江町は海より入る所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也
 此の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也
 其の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也
 其の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也其の地は高しき所也

下巻

根津川筋

惣仕玉 四六

如此北廓風モアリシ

高野宮新大跡段内根津川中田筋偶門中

根津橋より遠くりの建物を仰ぐと高野宮の御宇也

と云ふ事ありて高野宮の御宇也と云ふ事あり



此の地は流石に三雄
九の任也

御宇に於て八幡山立石氏相船
船橋の事也云々神の事
江戸頭礼吉云々

月局見世

寛政

百口



付古八幡宮と一軒の地ありて高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也
地より高野宮失後高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也
高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也
高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也
高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也

容者評判記ニ云

上上士

音相

しそ引の事ありて高野宮の御宇也

高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也

高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也

高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也

高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也高野宮の御宇也

色里三十三新六番

谷中山よりはるり

夢の神若原三年 天王寺

九郎本宮

内和尾五重文

三ツ子

遊のハ

いろは

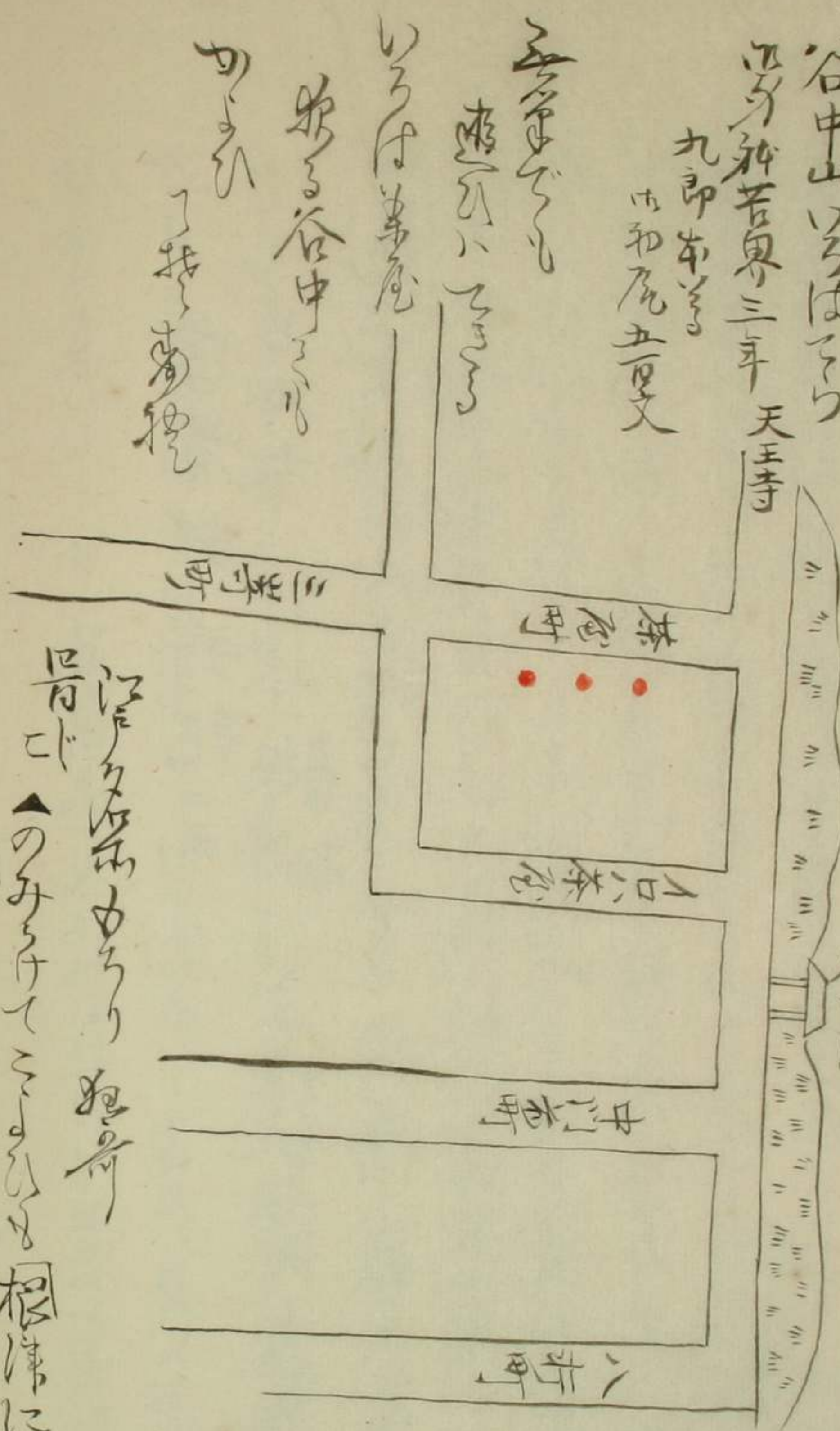
谷中

か

つ

上野

谷中門



江戸の谷中より 廻り
 甲二一
 ▲のみちにてさよふも 根津にさるる
 谷中よりいろはよりけん

紫麻子云四六平家音所は浄土教の凡衣裳大い之間堂も此
 人よりいれしそとより絶く教人せよとのよ 形持ありて
 形持ありハ中務有叶付信後也是あり 日本表所平家音所
 此浄土教衣裳衣たり大尼世まふぶるし人かろ 及てはモシキトヨブ
 此音安水二平の市知あり大尼世も音所トト尼也
 色里名所 音和滝 寺子丁表の遊坪小なる人せ見取れ也
 此〜四六〜

又三十三所之九番九丁山音所より市音安水此揚観音

江戸の谷中よりいろはよりけん

口和尾五重文

音羽町

大ノ世と而子供をヨリ呼出ナリ料理茶屋云風ナリ

子供屋ニ所

九丁目紅屋

伊勢屋

料理屋三軒八丁目

信吉屋

三河屋

九丁目吉田屋

北三河抱子^トト^ト之^ト子^ト佐^ト也^ト呼^ト由^ト而^ト有^トま^トり^トそ^ト

日乃見世

撈所ヨリ裏通リ斤例ニ見セラ法女ヨラガサツニシテ

風俗ヨロシカラズ從來スル人進モ引入

九丁目南撈所^ト五所

天保年^ト角^ト磁^ト之^ト野^ト山^ト下^ト太^ト堂^ト呼^トリ^ト後^ト絶^ト不^ト

同表所七丁目八丁目

西ノ方腕ヅク長尾ト云

日新長尾

九丁目西表大下水向ウニ所

名家集^ト云^ト 家曆年中^ト写本

右^ト表^ト之^ト赤^ト友^ト隣^トノ^ト産^ト也

昔^ト所^トト^ト云^ト中^ト以^ト人^ト稀^ト列^ト近年^ト又^ト極^ト留^ト也^トナリ^ト護^ト赤^ト也^トト^ト云^ト遊^ト之^ト藍^ト所^トノ^ト雜^ト目^トノ^ト谷^トト^トリ^トナ^トリ^ト而^ト有^ト目^ト白^トト^ト云^ト主^ト我^トあり^ト又^ト何^トあり^ト川^トノ^ト井^トノ^ト引^トト^ト流^ト也^ト東^ト部^トト^トリ^ト新^ト人^ト物^ト靜^ト之^ト神^ト人^ト也^ト中^ト時^ト煩^ト尚^ト也^ト死^トけ^トら^トる^トた^トま^ト法^トト^ト云^ト云^ト云^ト

谷中

物伏玉

益

四寸

赤

六寸

谷中いろは衣裳髪^トの^ト風^ト赤^ト飯^トより^ト少^トし^ト

但^ト自^ト身^トヲ^トの^トを^ト以^トて^ト受^トり^トる^トと^トあ^トし^ト是^ト一^ト也

安^ト永^ト天^ト明^トの^ト行^トり^ト少^トし^ト一^ト物^ト也^ト凡^ト也^ト不^ト覺^ト之^ト也

鳴^トり^トる^トあ^トり^ト一^ト尺^ト世^トの^ト然^トり^ト根^トは^トり^ト續^ト也^トり

其^トの^ト名^トを^ト云^トふ^トは^ト 方^トの^ト名^トを^ト云^トふ^トは

何^トれ^トは^トを^ト云^トふ^トは^ト 此^トの^ト名^トを^ト云^トふ^トは

谷中感應寺^ト門^トノ^ト天^ト保^ト年^トヨリ^ト 護^ト國^ト天^ト寺^ト改^ト名^ト也^ト新^ト法^ト所^トト^ト云^ト住^ト持^ト也^ト早^ト七^ト所^ト有^ト也^ト一^トは^トと^ト云^ト也

是^ト里^ト法^トの^トあり^トは^ト法^トノ^ト砂^トあり^ト女^ト何^ト焼^ト矢^ト後^ト也^トや^ト四^ト女^ト新^ト所^トあり^ト又^ト古^ト所^トあり^ト

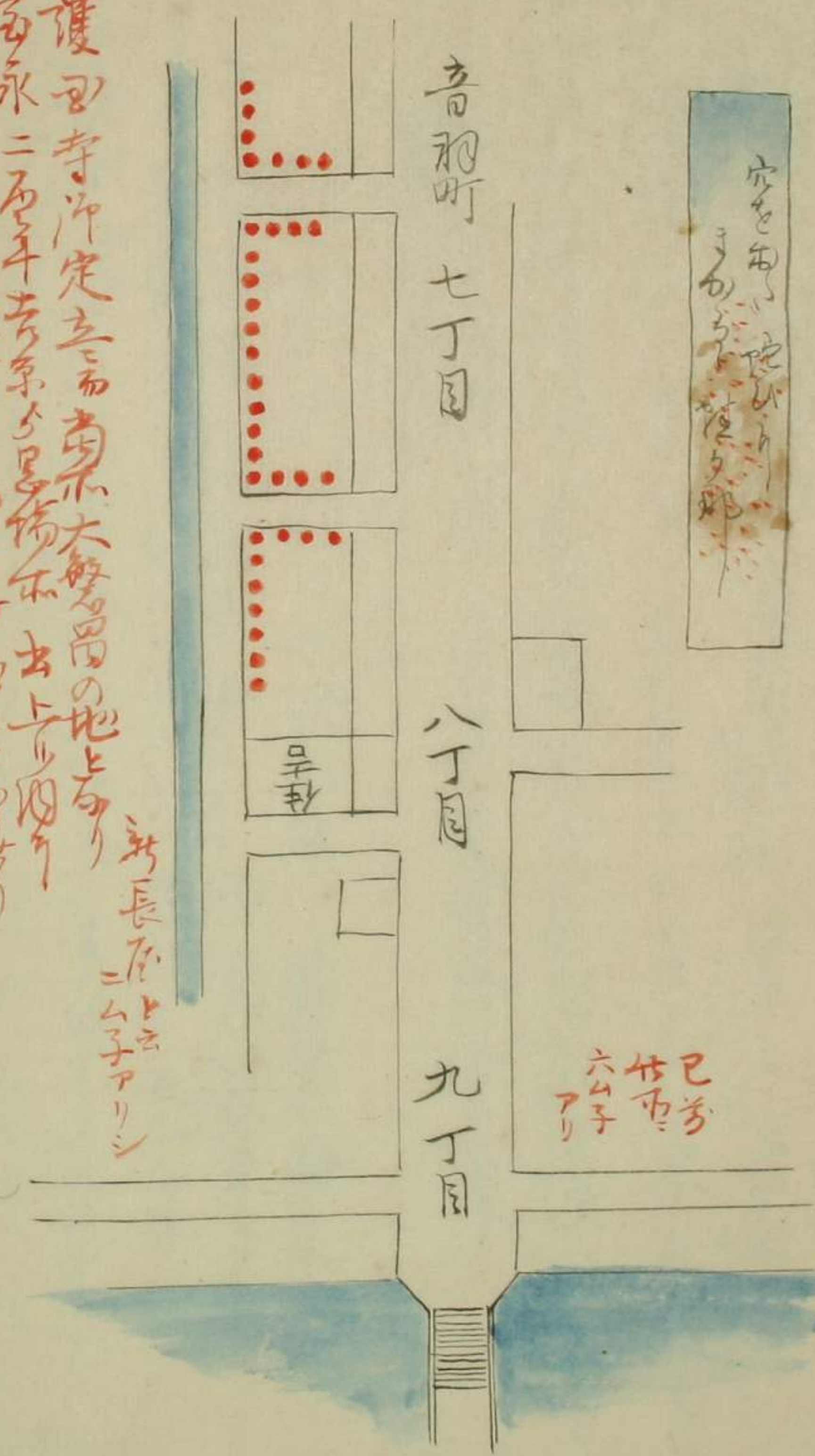
或^ト云^ト云^トは^トと^ト云^トふ^トは^ト 暖^トの^ト所^ト也^ト 亦^ト古^ト所^ト有^ト也^ト人^ト物^ト多^トり^トと^ト云^トふ^トは^ト 何^トれ^ト也^ト

梨^ト園^ト築^ト也^ト古^ト所^ト有^ト也^ト人^ト物^ト多^トり^トと^ト云^トふ^トは^ト 何^トれ^ト也^ト 三^ト寸^トも^ト云^トふ^トは^ト 何^トれ^ト也^ト

せん^トが^ト本^トの^トと^ト云^トふ^トは^ト 世^トに^ト傳^トへ^トる^ト也^ト 亦^ト古^ト所^ト有^ト也^ト人^ト物^ト多^トり^トと^ト云^トふ^トは^ト 何^トれ^ト也^ト

音羽街道里天保年簡圖

此の町は地味に
よく整備された町



護国寺決定之而南米大船寄留の地とあり
安永二年平吉系が里筋を北より南に
護国寺門前横所を凡二十所程とあり
遊女十六余人トノ上上女ハ里筋南大倉記也

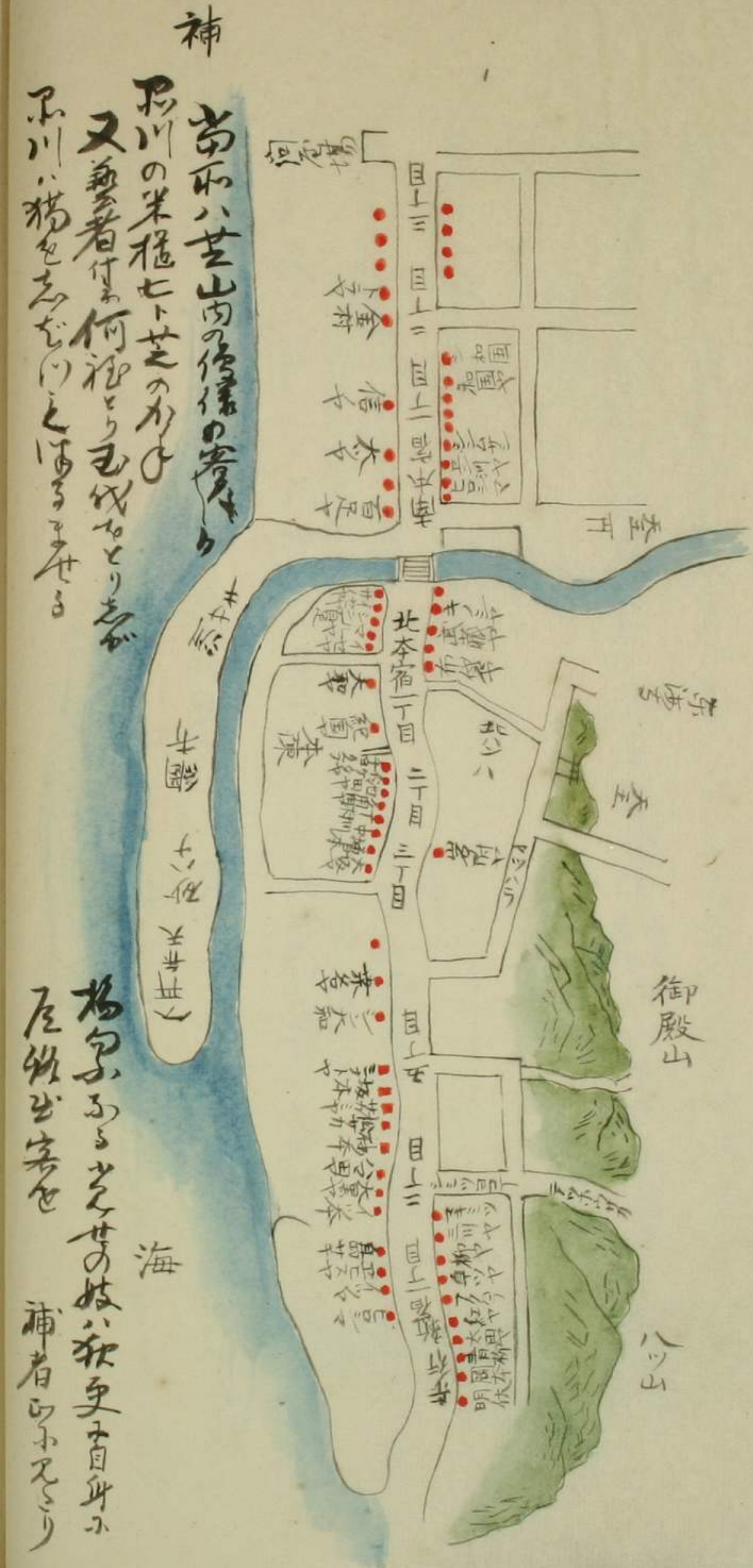
新長所ニハ子アリシ

花里通商考ニ云品川國南樓國ト云此國海辺絶景ノ地ニシテ芝汐海ノ辺ヨリ多く出松
ニテ此所ニハ金銀スルノ儀俗北國ヨリイヤシクナレテ格々客ノ指ヲトル此國中ニ大橋アリ
橋より西人物イヤシ此地北國ニ異ナルアリニ十六夜はく終トス家一行ニ三弦一提彈スル
一ヲユルス國法アリ外々ハ皆カラサソキナリ多ク横田國の新五左大名巷ノ少年夜を
来往ス妻を大倉ニ注ス異リ

四谷新橋 尚彈室傳以徳境セラシ知州九年改元再迎先あり再奥も言弁人ニリ
世伝奇話ニ云此地甲州街道旅籠也旅者其方ノ喧嘩安永の以終り加盛人ナリニ世伝只
勇腹を割し紅粉の旅の伶者古よりわきまを執りて世に之つもる也一文字云平家討死也
四谷新橋は府民のオトは浄土ヤト云々云々也其年芝浦三田武蔵州の又込ヨリ風俗定ル大いに
平川と云ふ備人ノ及はるは其者再興ニ年ノ君述也定むるもラキトス之ヨリ當時金堀ニ
南橋

品川遊里全圖

京都四驛之隨一絶景繁花ノ勝地ナリ

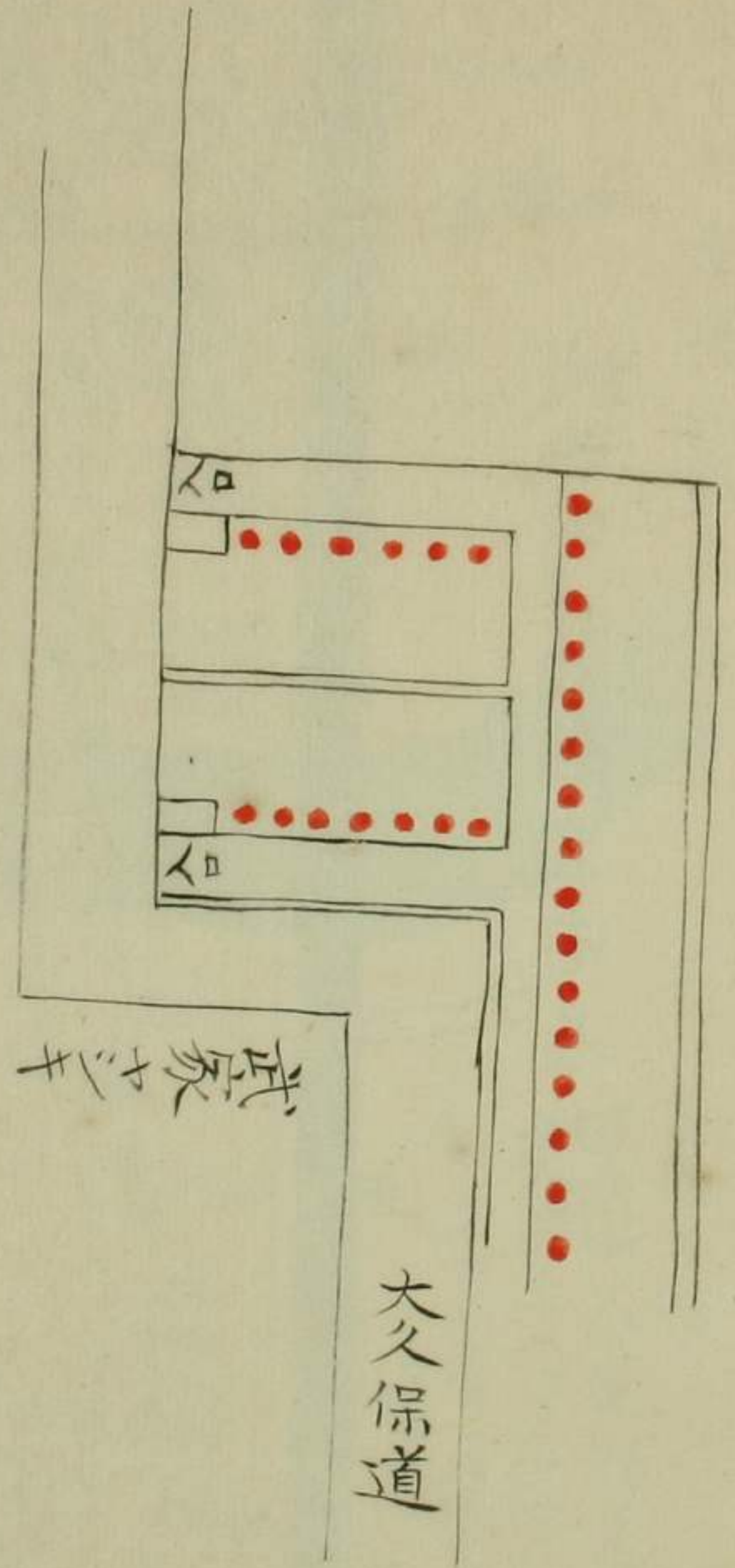


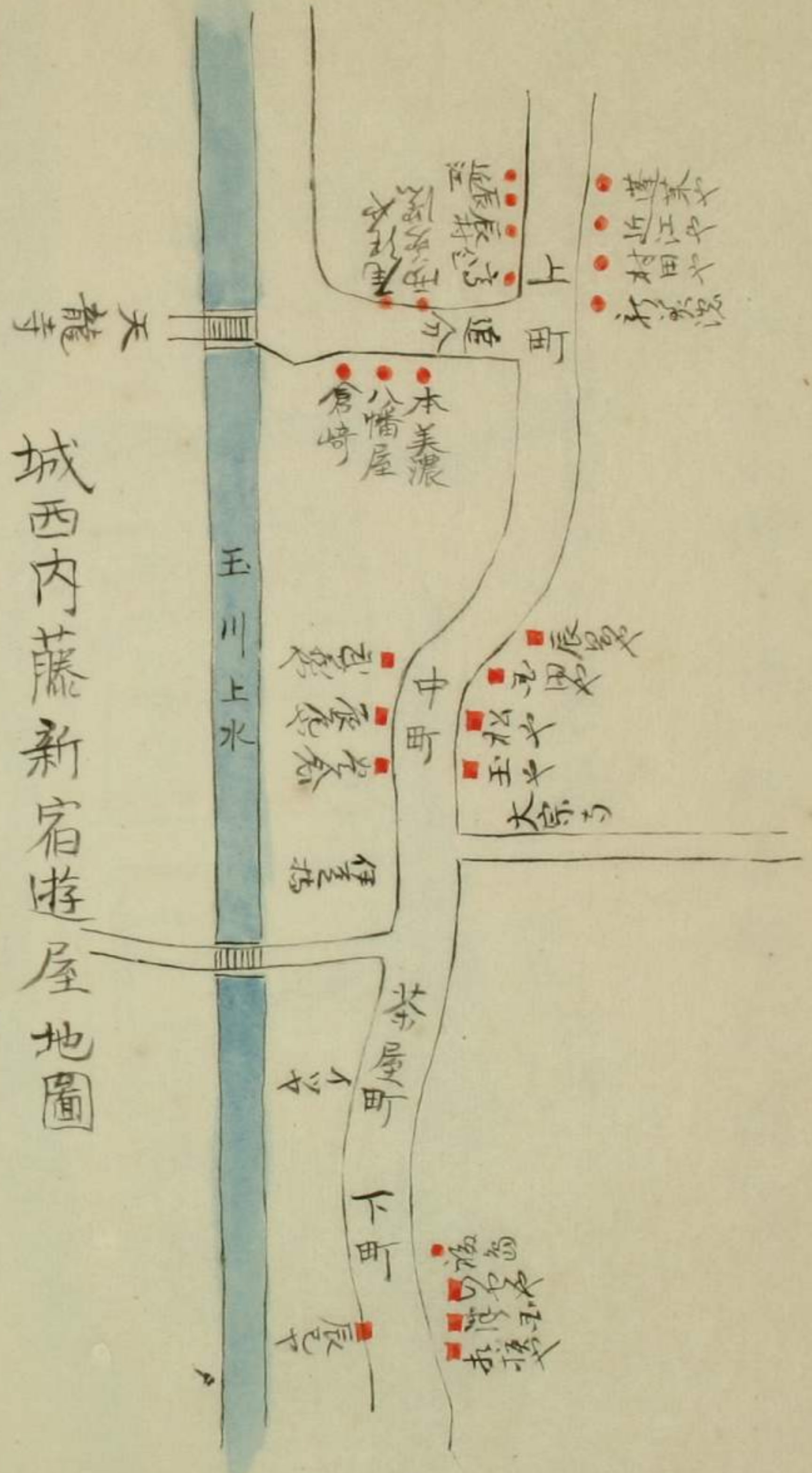
品川の米櫃七ト芝のかし
又善者付何れと云代をとりて
品川の橋をみるのとはるまをる

市ヶ谷縮谷惣房見せ

竈敷

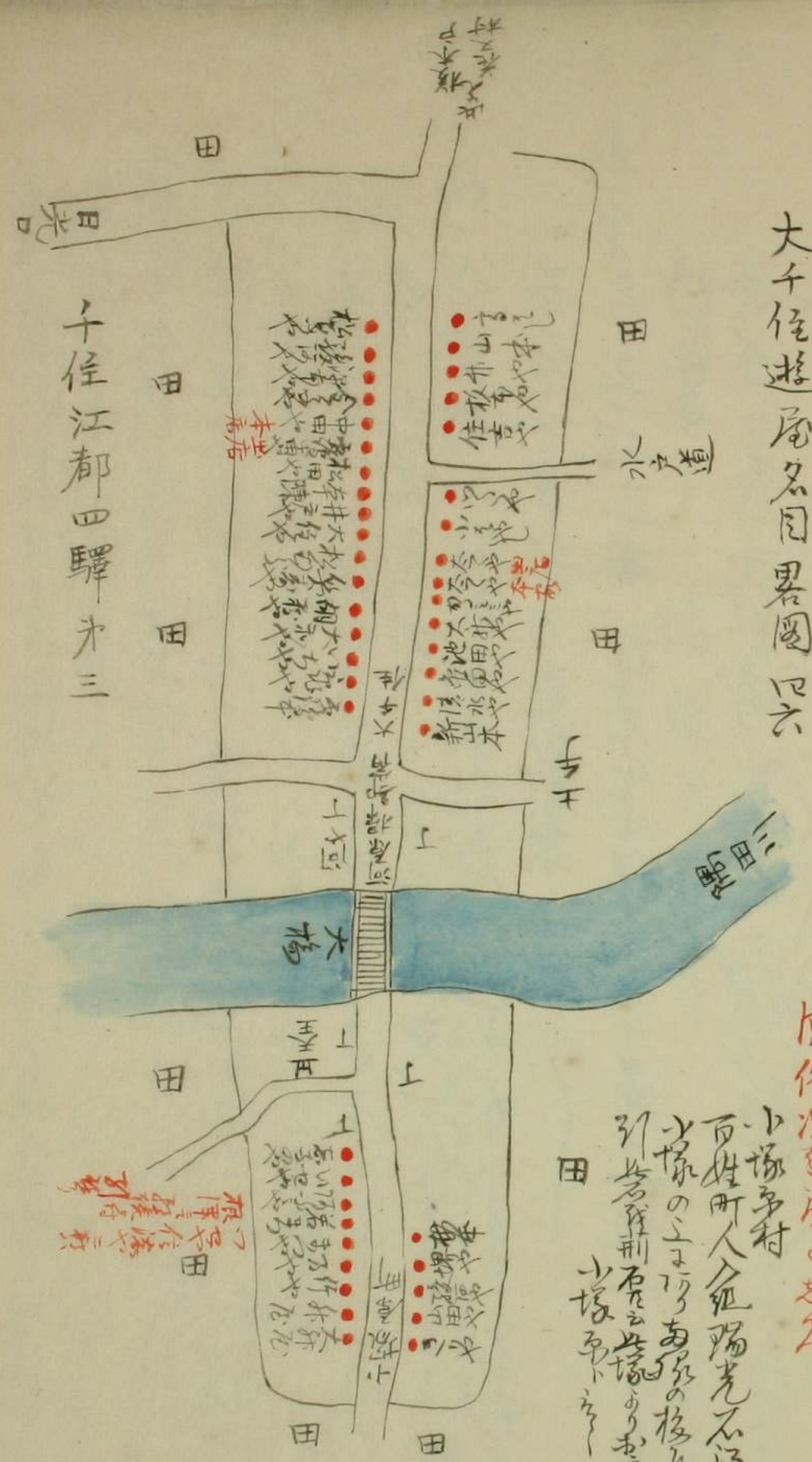
玉敷





城西内藤新宿遊屋地圖

小塚系中村全圖 當時繁栄遊屋
大千位遊屋名目畧圖 四六



並段四寸 約百六十寸 藤若四寸
凡俗次をいふとる人

小塚多村
百姓所人 龜岡光石 江戸妙多
小塚の上より 亀岡の移り 江戸
引越す所 石をいふ 亀岡の移り
小塚多村

千住江都四驛才三

ほうらういのもろがせんねん『名沢所さかり代はめ』がふく〜
 へあ〜の『大移何々』月々はくも〜う〜と〜あ〜
 さらま〜『志んちとあ〜せらばせ〜何とね〜
 ち〜と花ハありけん入あよ〜や〜
 リ〜うがの〜又だま〜
 ぬ〜け〜『吉田所』〜
 るま〜をすめ〜とせん〜あ〜
 をにの〜を〜
 わり〜あ〜
 存あけ〜居んせ孝完〜
 宗〜あり〜
 リ又『は下ハ』〜
 七〜

赤坂田町五丁目 大見世 拾軒

惣伏玉 昼夜貳朱 四六 朝真シ 女藝者ニ朱子附
 女郎風俗中通り布圍蒲ナリニ階六尺廊下座鋪割床ニテ客ヲ
 撰ミ悪風俗者不上侍商人風俗者客ニナス表ニ階窓ナシ



他家外行モ各
 家名付地老管押
 金見階子
 願掛テアリ



他ウチハ見世折ニ夜宵ヨリ
 九ツマテノキニツルシテアリナリ
 皆同ジヨウナリ

他地ヲ俗ニ夾飯ト云臺物 四六ニ朱其上不限
 仕舞物日ト云八正月ヨリ五節句 六月祭 棋拂ウツリ替

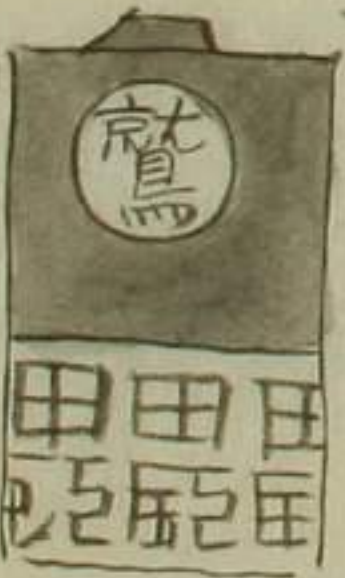
寛比須構

同所居見世

竈敷

玉敷

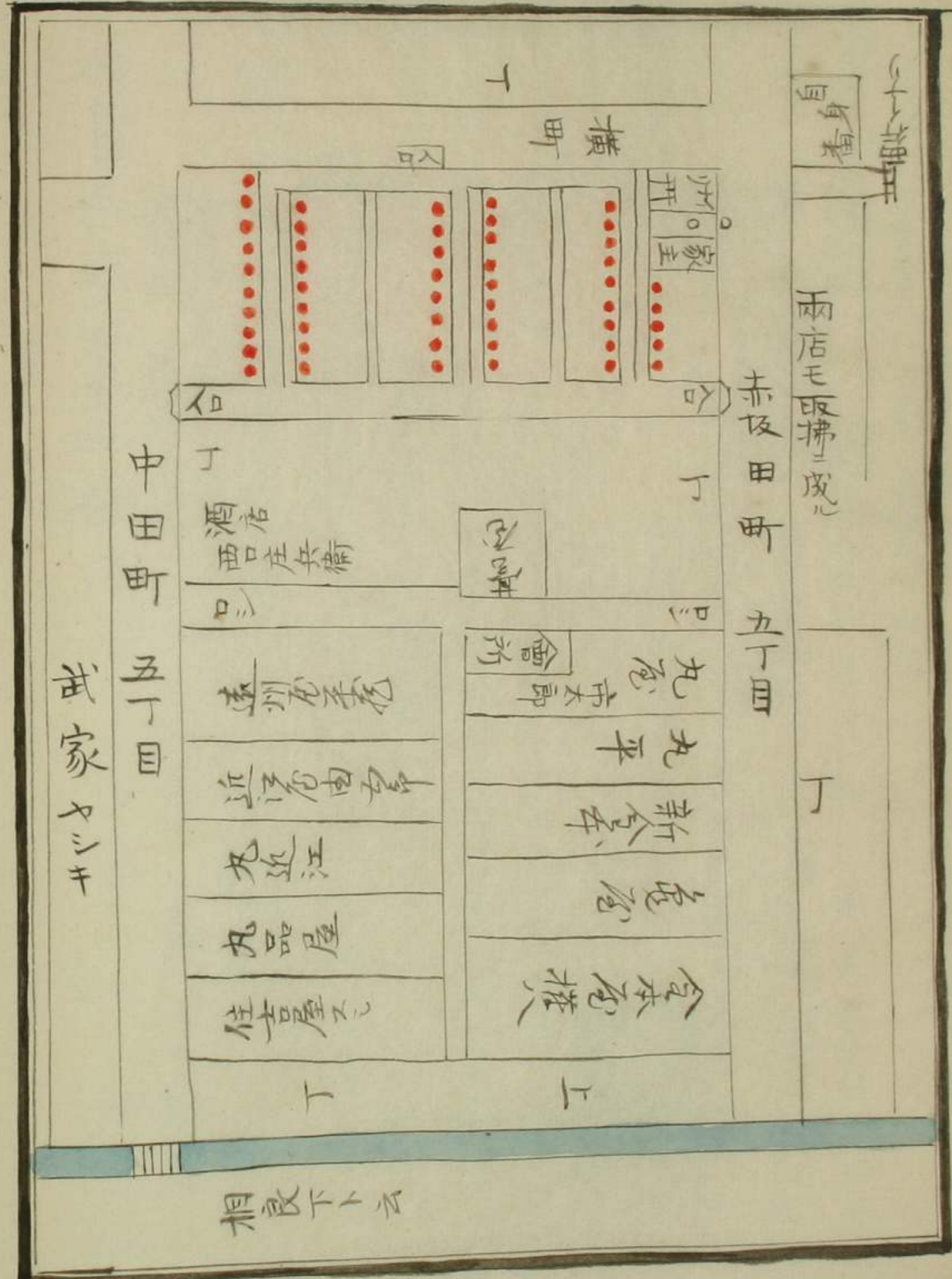
路次敷

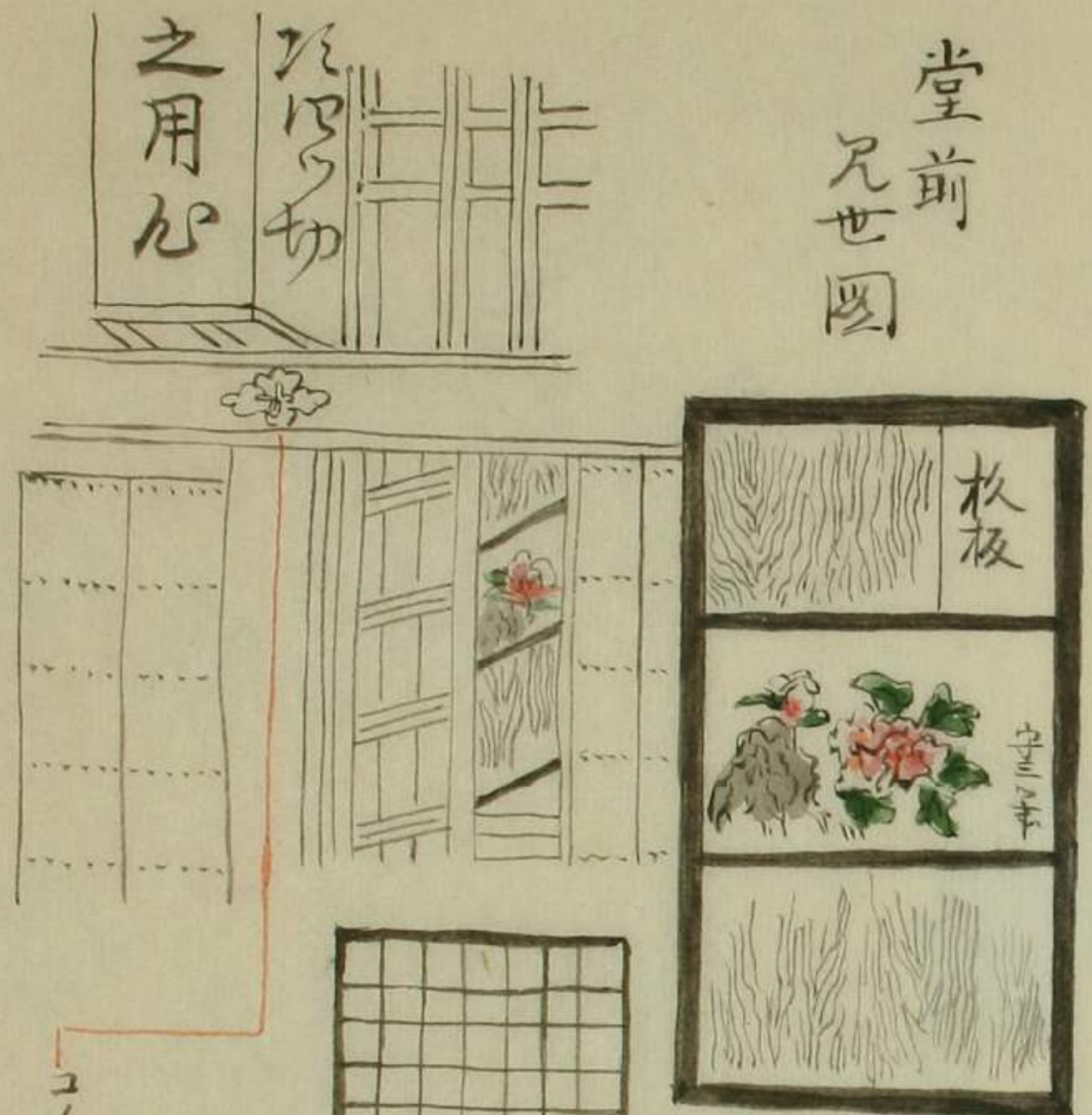


路次四ツ切トシテ九ツメ切支ヨリ 泊リモ直置不限宵ヨリ泊リハ
 ニ朱ナリ切モ不限客々子至テ悪シキフニヨリト泊リ早ケレシ
 階上エケ又客ヲたり女郎風俗のテワルシ前ハ女野ハナシ
 ニテ五半ヨリ立出テ泊リ客ヲ引込元拂ニナル前ハ少せチ
 フニナリ客モラソット能ナリムタイナツモ止ナリ
 天保三年八月五日大見世モ共ニメカニル

堂前

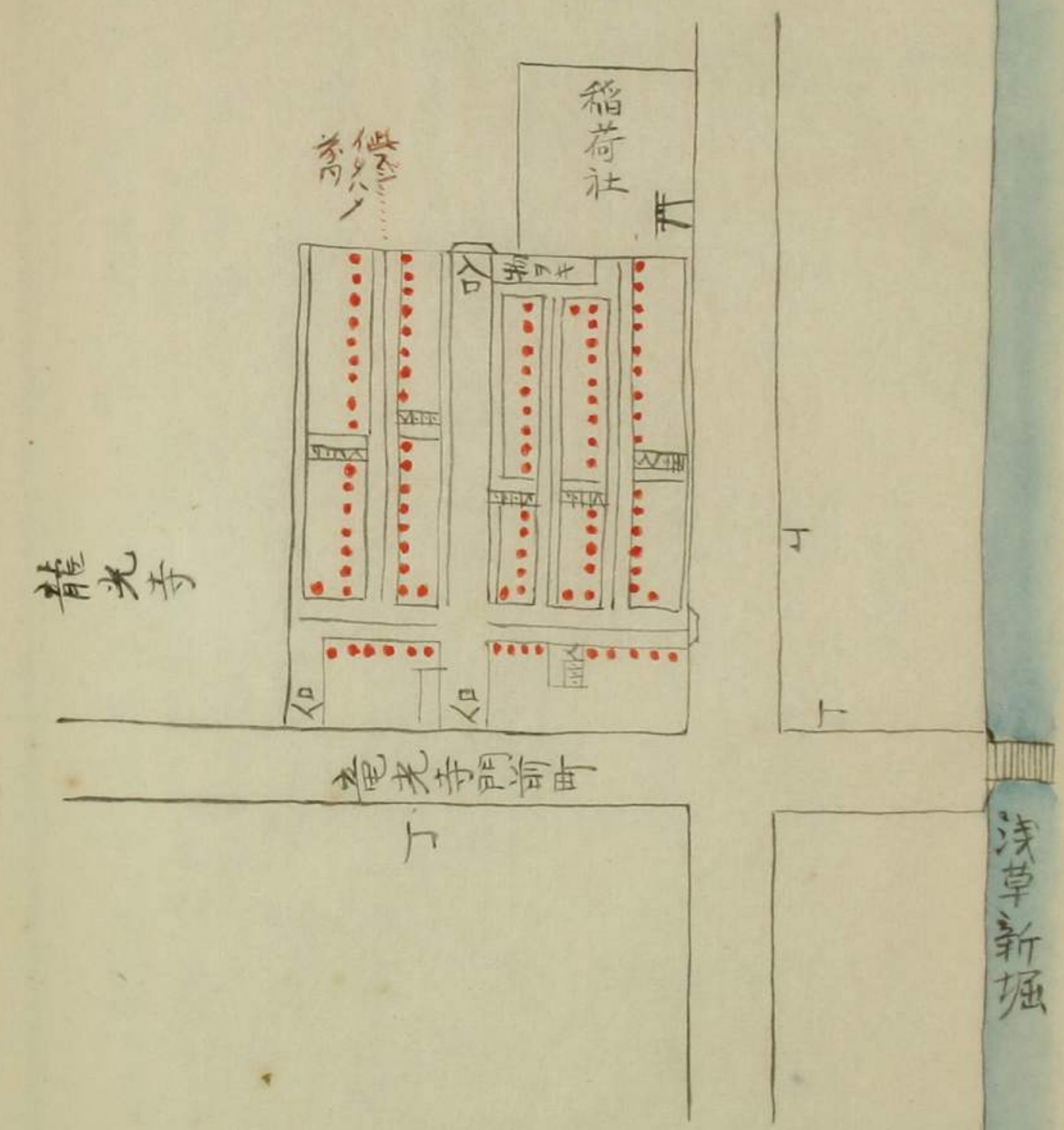
浅草新堀端龍光寺門前ナリ四方は朝鮮矢永ヤク世間四方モアリ
 中ニ大通リ有車馬ノ往來シテ赫アリ 路次ニ限リ三人追出シ女風俗吉系
 石川岸祐同シテ路次ニ先ニ居ナリ 切客直尾石限泊リニ朱下ハセシ
 仕掛モ羨ニテ至テ必ニ捕ナリ 捕 控女毎朝所ノ風言入ル傷多ク
 店致徳系 特徳治郎 白
 天保七年三月廿四日 立花左近右衛門尉左衛門尉左衛門尉左衛門尉
 此地天保十三年三月廿四日 夜一同ニ上ヨリケイドウ此 跡ハ幸ニ海多ク捕者不届通リ然
 押入者七十余人比召捕其五人共店致入ル 一屋ノ多ク
 牢ニ成ヌヨリ 御吟味ニ成リ 隠愛ト成
 御掛ノ南所御存アリ 居甲斐ヲ示ナリ
 同年十二月九日 一洗呼出シ女致元刑人共 洋自洲ニテ居者ニ成
 店致 遠島
 至人 百目子院 押込モ有
 女房モ シカリ置
 各主 十メ文ニ料
 童支与 十メ文ニ料
 家ニ共
 女郎 親エ工
 親エ 十メ文
 判令 五メ文 過料
 此ニ料卯年二月二ヨリ 三月ノ迄納ル

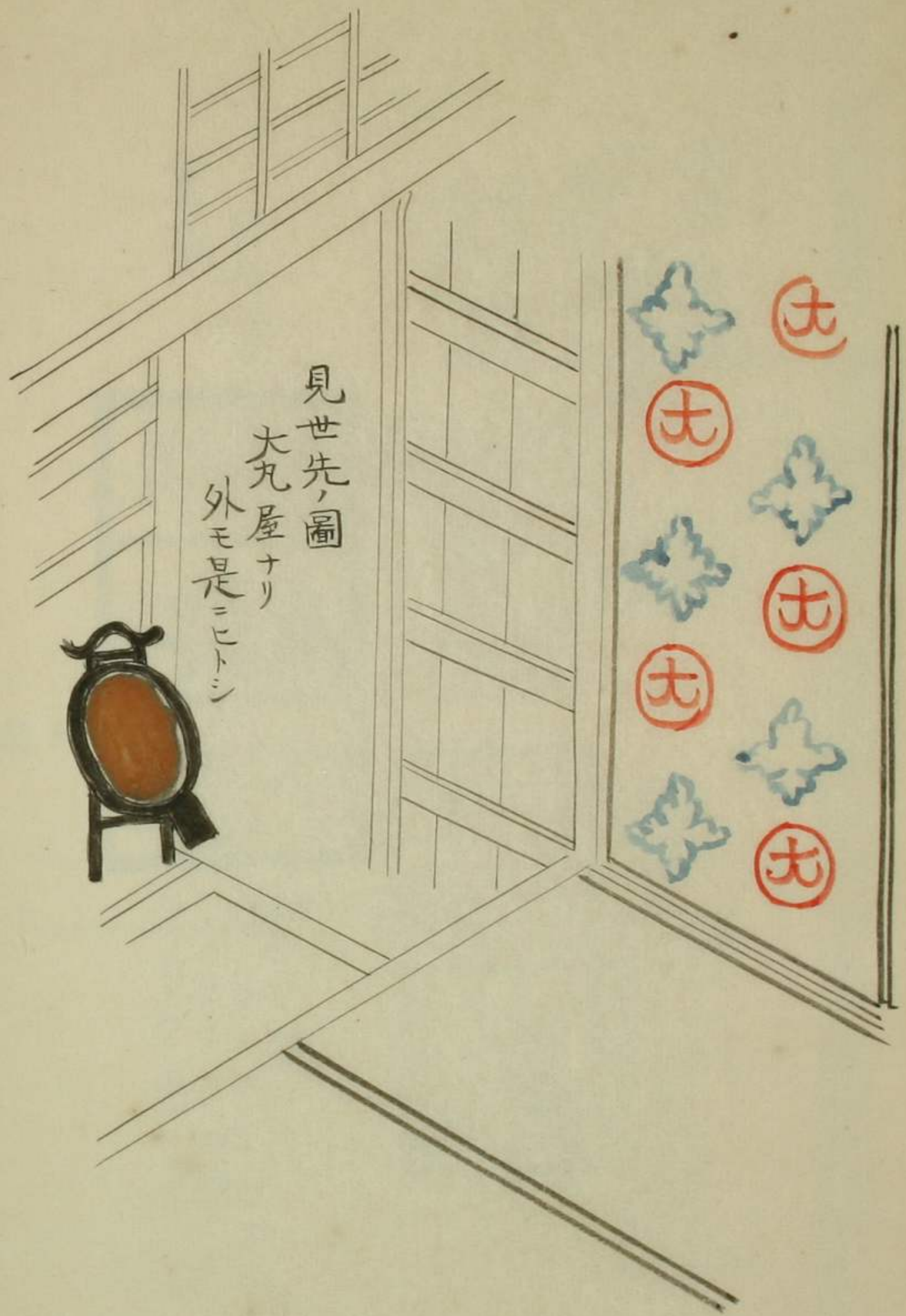




白半障子公奥ト見セトノガニアリ
 足ニ牧ナリニ尺五寸ニ六尺ナリコレ
 ハ外ニ上公ナリ下板戸ナリ外
 毛同シヨウナリ
 コノナリモマニカキル

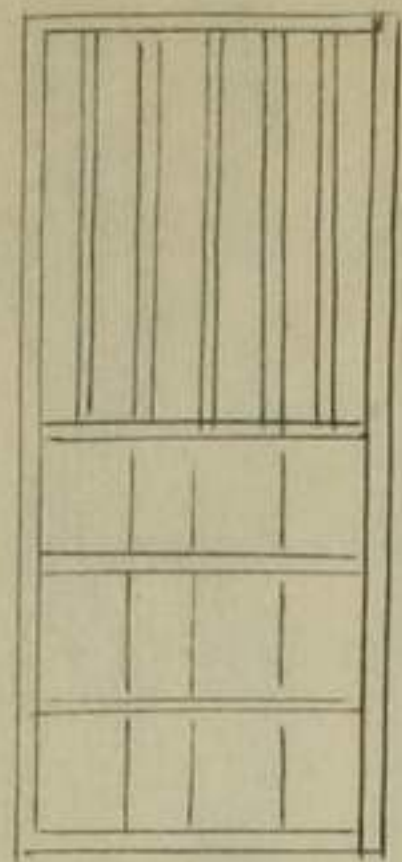
此戸ハ尺セト見セトノガニシキル
 ナリニ牧アリ上下板板ニテ中ハ
 夫ニ画カキシラスマニテ美ナリ
 此場ニ限ルナリ



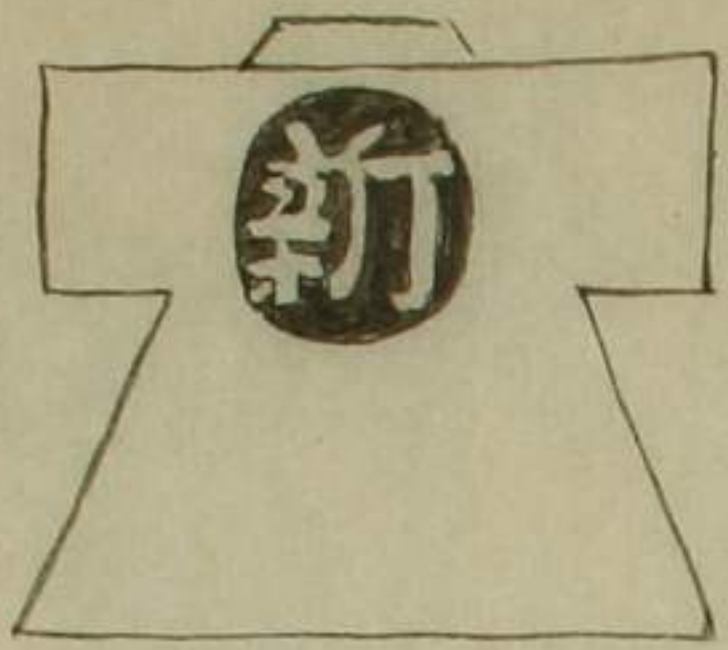


見世先、圖
大丸屋ナリ
外モ是ニヒトシ

南無阿彌陀佛の末大喧嘩有りて其後遠入の戸を



如新上と核子と遠く肉をも執り執り執り
おのひに付あきまを引をるるあり



路頭まで申す
女人種あり

性古も其意の取らば遊里多し一階の地帯と年限休
其ハ其種ありて可し其細を思知所考大金あり

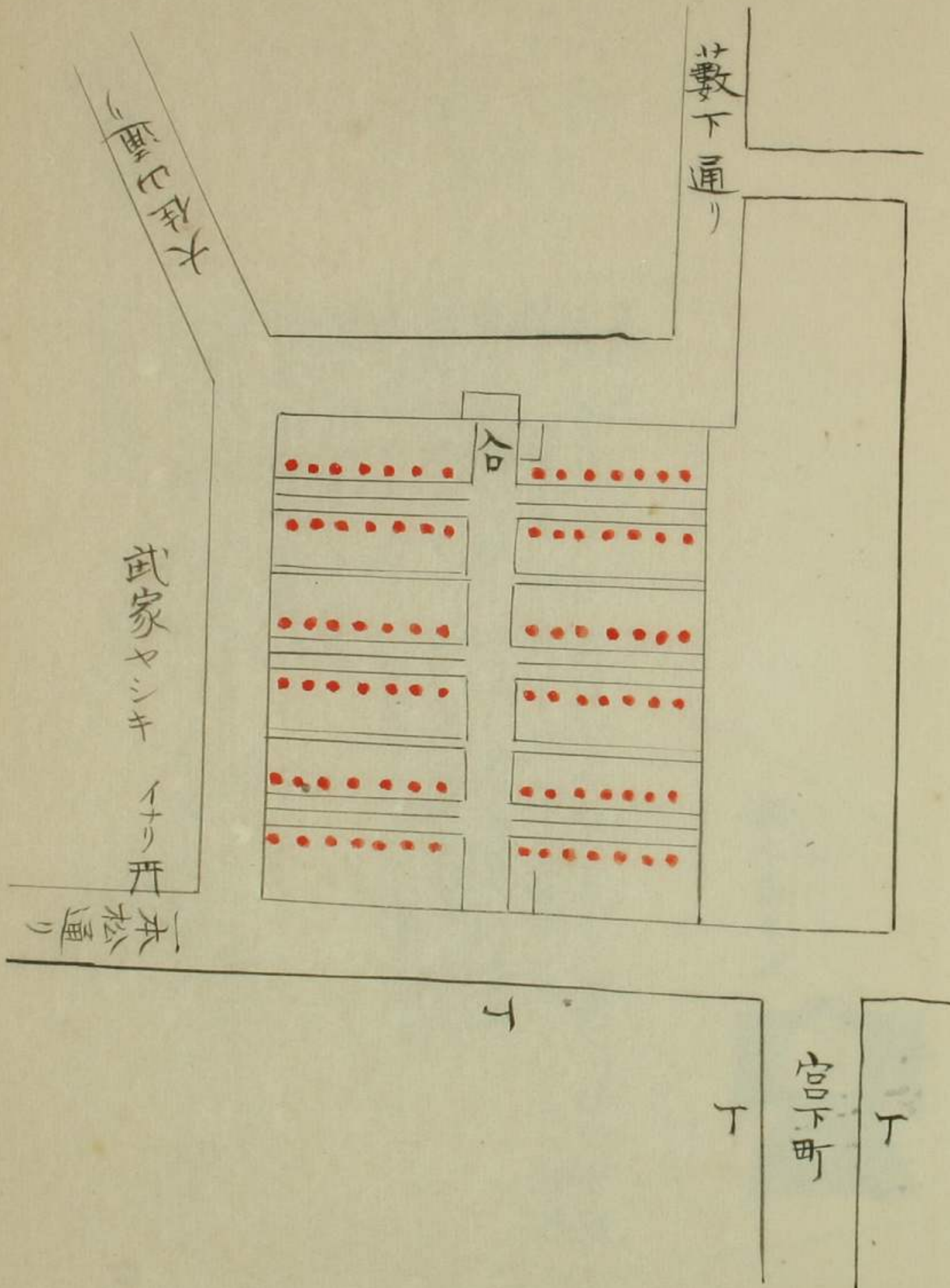
麻布市兵衛町

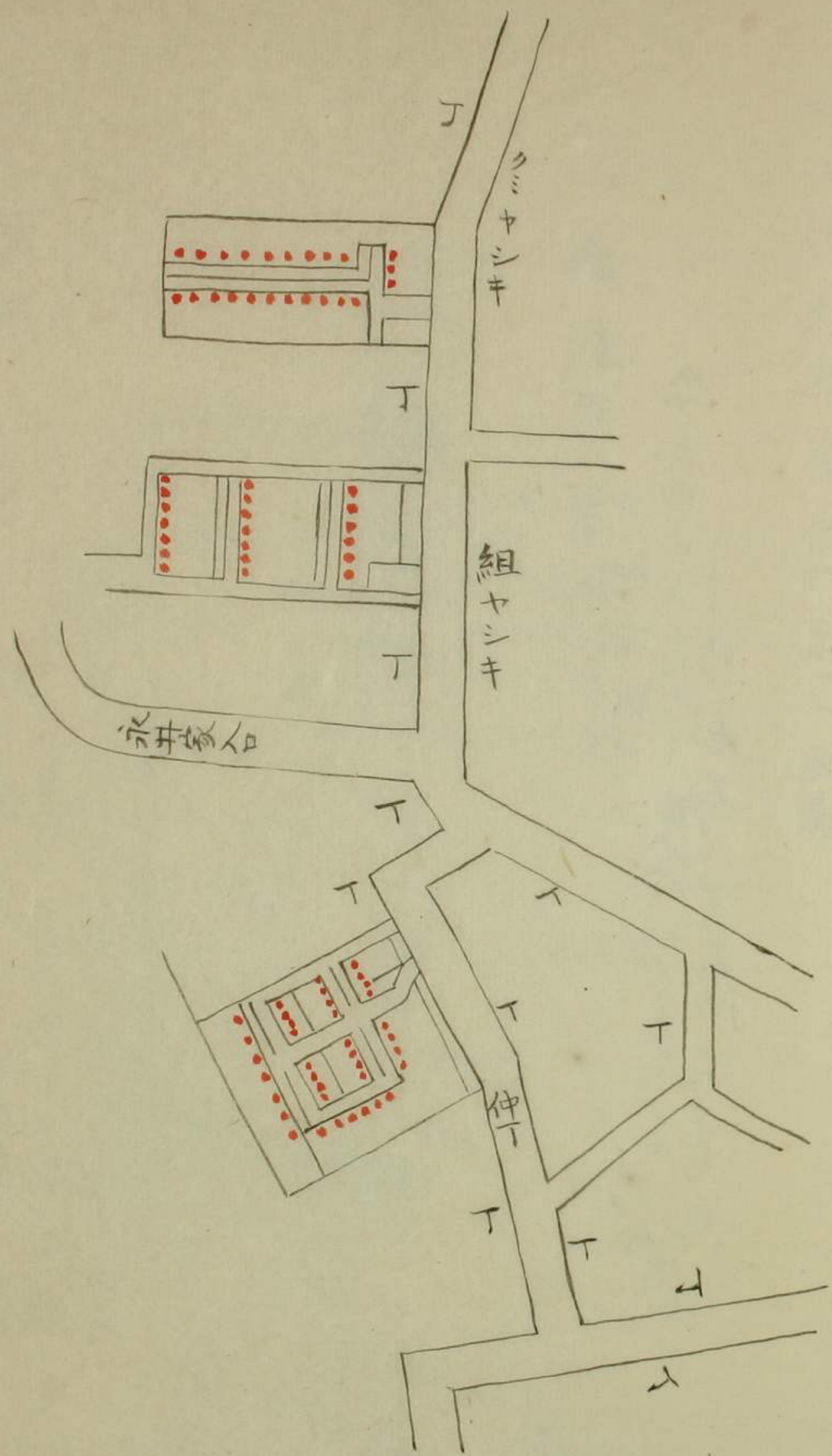
惣局見世シテ入口ニテ所中凡ニテ程路次夜ヲ限リニメ功リ
 夫ヨリ来ル客路次ヨリ行先ニ内名ヲ聞ミ路次番一人ツ付テ
 フクリ外ヨリ其内ノ名ヨビテ入ルナリ泊リニ来下ハナシ切客ハ不限
 女風俗不悪カラシテ地廻リ近辺西久保飯倉谷丁辺ノ者ニテ
 昼夜トモ諾テ居ルナリ又女見セヨリ顔ヲ出スナラズ路次番
 八人程有リ店頭八百金後相模屋ト云ナリ天保十三年八月
 五日ノ切迫ニ取拂ニ成
 路次番妙々半天丸ノ如シ

毎月物日ト云ハ五日十日廿四日
 仕舞日正月三ノ五日五節ノ
 恵比須攝謀拂



此ハ相客ノ所ニテ
 路次番
 何カ
 出ス





麻布藪下 惣見世

竈

玉

此場所ハ至テ人氣悪シク女郎風俗ハヨシカラズ無躰ニ
路次四ツ道而九ツ追人居ルナリ泊リモ切モ不定シテイタリ
其頂店頭鎌倉屋

此地ハ度々大間遠有リ

去ル天保十年亥四月芝三田有馬玄蕃頭様
屋鋪部屋者共長家二弟ノ間遠有テ同十音
昼九時一同屋鋪ヨリ押出テ去六十人程行抜身
飛ロテ切見セノ前後ナク打コハシ屋根上下ナク四方ノ朝鮮
矢未追キタラシ其時見物山如シ夫ヨリ追々御吟味成
夫切立ツフレニナル

外ハ天保九年二月九日昼時
乾燥ニ及テ後徒々上リシ也

路次番半天
印ナリ



鮫ヶ橋

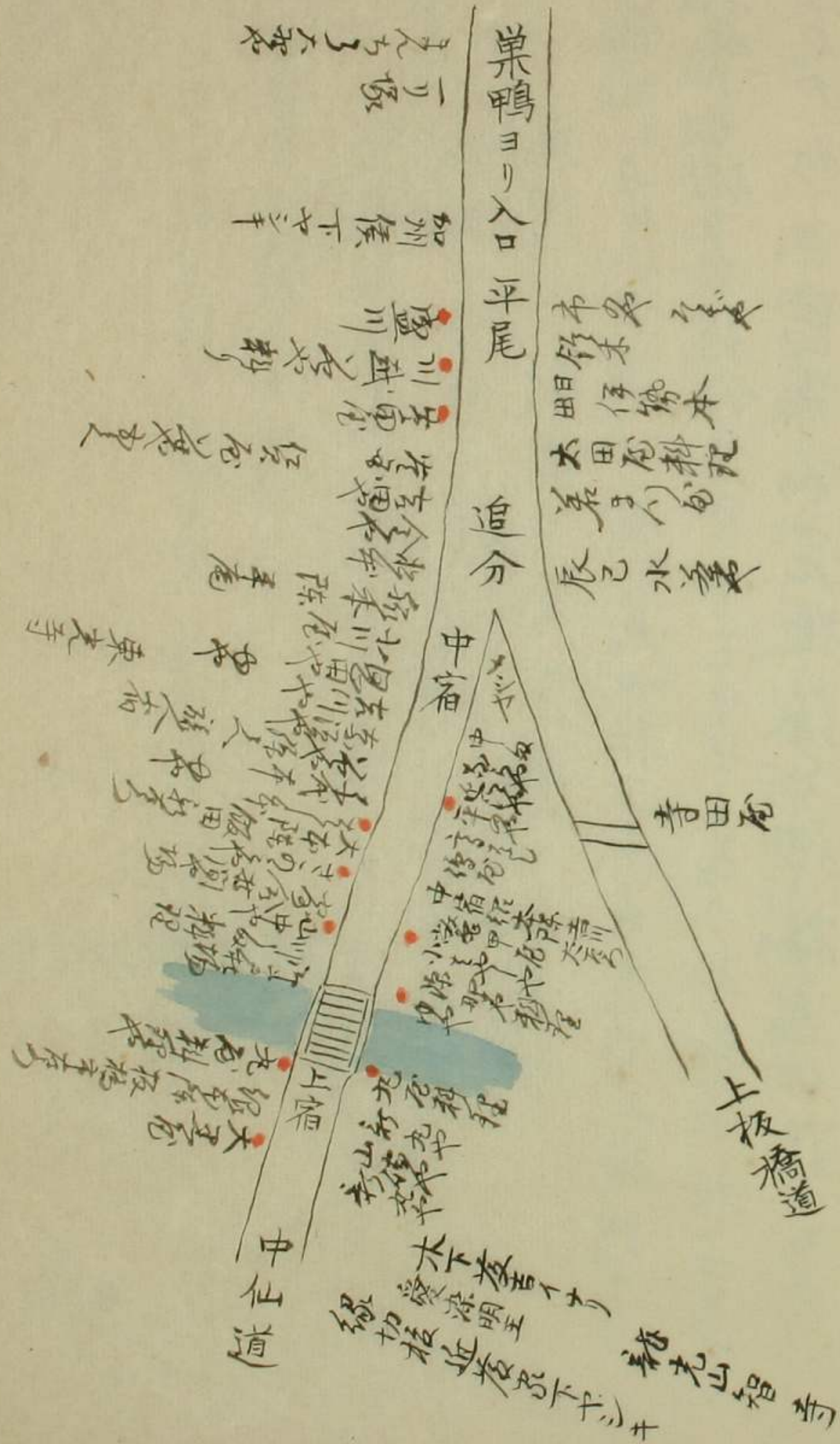
ニヶ所凡見世ニテ至テガサツニテ無躰ニ客ヲ引込
 ウカイト入テヨル人多ク有リロジ限リト而九ツ道モ明
 テアリ女風俗至テヨロシカラス泊リ定ニ朱ト而不限切
 不限上ケルナリ玉不揃ニテ地前モ交リテ有ルナリ

ちの...
 ありて...
 の...
 の...

戯劇百人一首内

安ものよろ...
 げか...
 かくま...
 のち...
 らん

中山道板橋宿 倡門名目画圖



板橋菴 巻取 曰云

世俗奇蹟

中山道下馬の初下馬十五日替り御
旅の御飯者女有り

里候に云南者女御座を二十七年の定こと云
板橋少佐の吉原同様の見世をも

品川と新島を足せんとす

天保十三年六月八日辰巳世格子を足せと云
丸作を以て仕切足格を多しありぬ物も格子を以

以考の如く是場を足拂後不随好富の款とあり
江戸名所は歌も有り

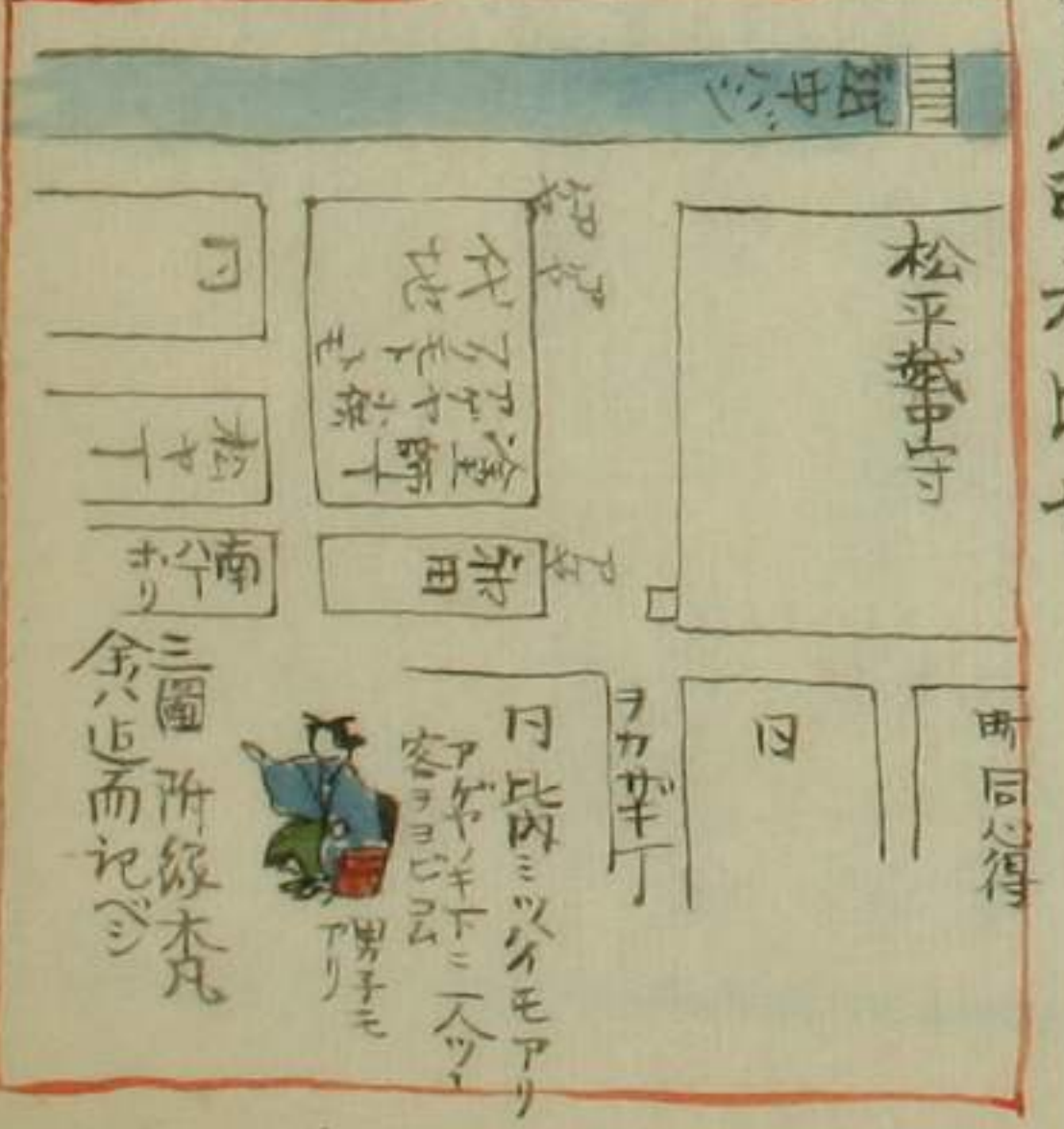
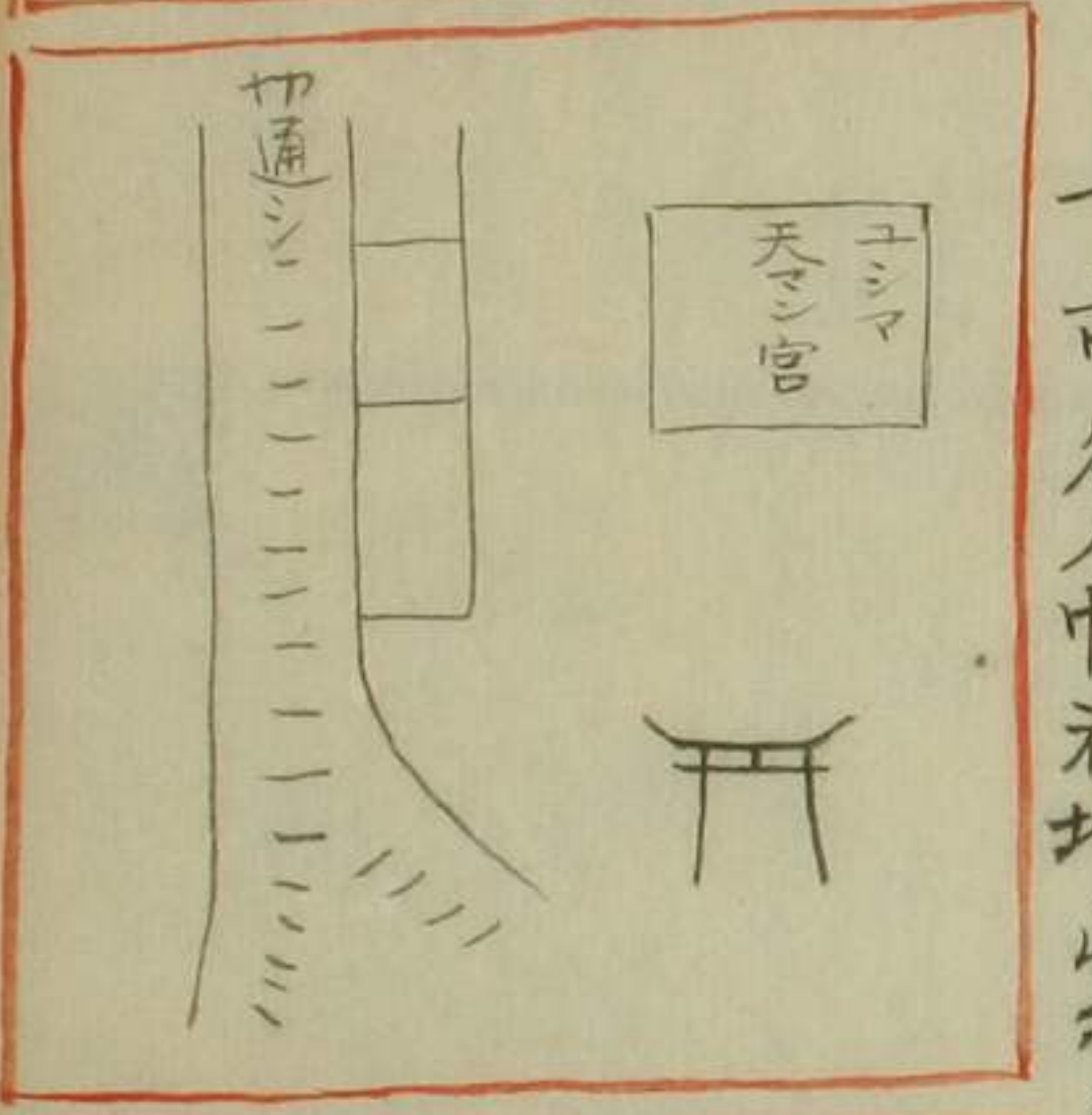
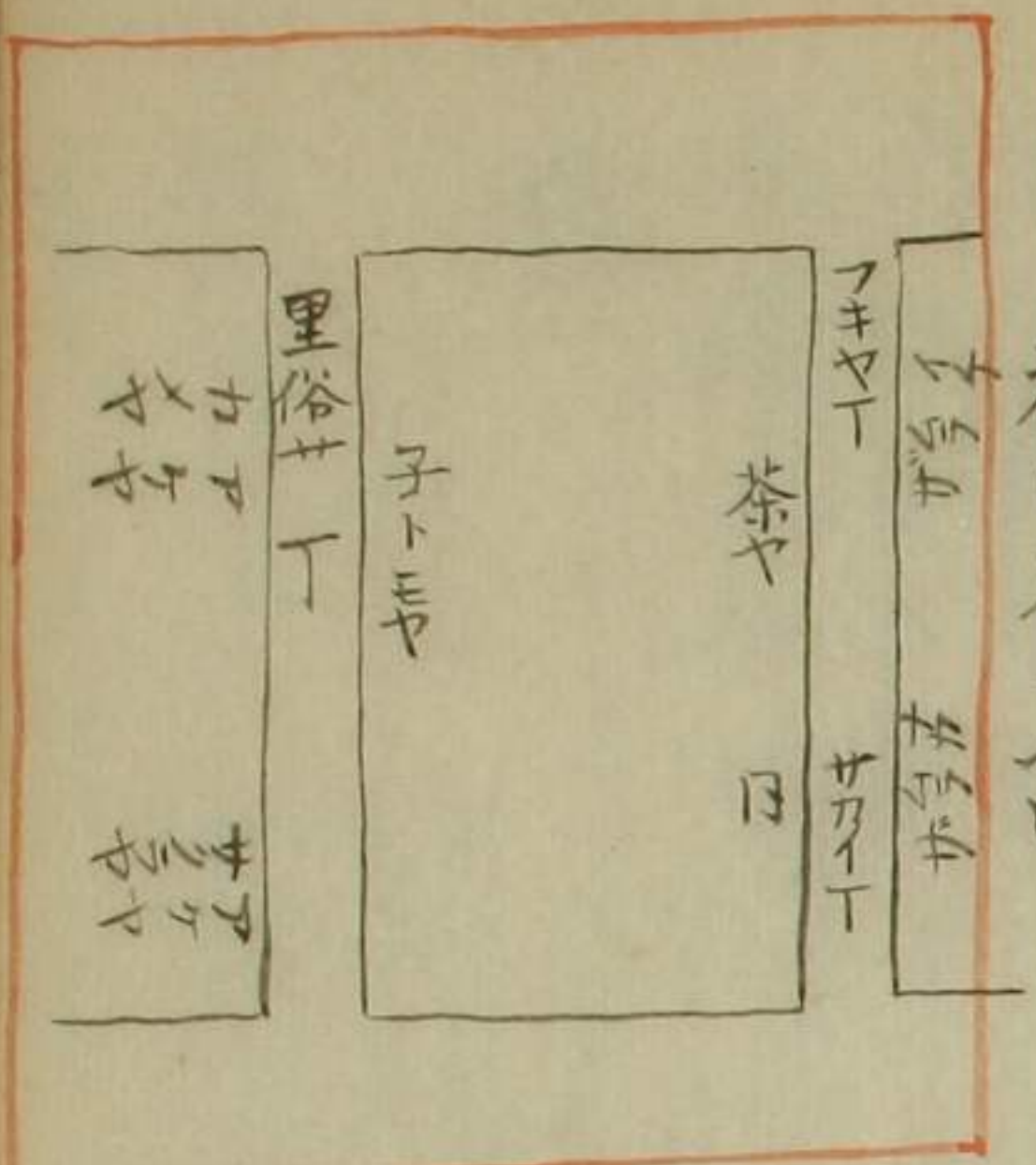
四 一 内取志く品川を橋向なる

田場所遊廓追加
男色之部

- 一 廿町 一 湯嶋天神社地 一 芝神明社地 七軒所ト云

- 一 南八町堀神田塗師所代地 其餘

- 一 平川天神地内 一 赤城 一 浅草馬道
- 一 神田花房町 一 市谷八幡社地 此地八寶唐明和頃也



引りもあらず各幕にて忘り男色ハ下下髪法とある下略

其書全曆年中の不全其比男色の事如は随分全成とも有り云々

夫男色をすするは後日本記出ていと古きものこ又定海法師帰唐以来より盛にありし事なり是程戒の比兵の此戯は成起し多者ありし之際なり
又源義家の十姓鎌倉推立而景政美童にて冠者なり五景政
とかけまると略法して呼ぶ故終は若麻の色名ありしと諸書に見えり
是附合の流にや翁若子戯場出て肴扱もいぞ其名をいしや翁若子
出初あり内より客を遣へ故に翁若子唱へ陰字遣へ故に陰間といふ所
なりん翁若子ハ別書誌

豊亭芥子戯誌



